

経営 サプリメント

テーマ

企業様が 「DXを推進する」意義とは

DXは単なるIT化や業務効率化ではありません。
「DXを推進する意義」について
一例を交えて詳しくご紹介します。



◎ITコーディネータ(経済産業省推進資格)
◎中小企業基盤整備機構 東北本部
経営アドバイザー
◎秋田県よろず支援拠点
スペシャリストコーディネータ(R7.4～)

青木 一幸
Aoki Kazuyuki

「紙とペン」から「デジタルデータの利活用」への業務改善から、大規模な基幹システムの機能改修まで、幅広く秋田県内の中小企業の支援を行っている。
現場の最適化を目指し、成長する企業様を積極的にご支援します。秋田市出身。

【お問い合わせ】
秋田県よろず支援拠点 TEL .018-860-5605

企業様をご支援するにあたり、最初に聞かれる言葉があります。「DXとは何ですか?」と。

その言葉を教科書の通りにお返しするならば、「**企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することです。**」とお答えすることにしています。なぜならば、経済産業省がこのように定義付けを行ったからです。とお答えしても「んだよねー」となることはなかなかありません。企業様の過去・現在・未来の時間軸を互いに影響し合いながら進めるものですので、DX戦略策定はまさにフルオーダーメイドです。同じ業種業態でありながら、内部・外部環境やそれぞれのステークホルダーまでが全く同一ということはほぼ無いと思います。やはり、創業からの過去・現在・未来がDX戦略計画書に盛り込まれ、初めて社内外に発信できるものになります。

単なるIT化や業務効率化ではなく、企業のビジネスモデル・組織・文化までを含めて**抜本的に変えること**等がDXの本質です。



01 なぜDXが重要なのか？

① 競争力の維持・強化

急速な技術進化や顧客ニーズの変化に対応できる体制の構築が求められています。業界全体がITやAIの導入で効率化を進めており、新興企業はデジタル前提のビジネスモデルで急成長しています。こうした環境の中で、企業が持続的に成長・存続していくためには**DXが不可欠**です。

② 人手不足・高齢化への対応

自動化・効率化による生産性向上が求められています。日本社会においては特に深刻な課題です。労働人口の減少で働き手が不足し、ベテラン従業員の退職の際にはノウハウの継承が困難になります。特に地方や中小企業の人材確保が困難な状況であり、秋田県の市場は全国でも先行しているのが現状です。

③ 顧客体験の向上

パーソナライズされたサービスや迅速な対応が求められています。現代の顧客は、「**自分だけに合った**」提案やサービス、「**待たせない**」即時性やスピード感。「**一貫性のある**」体験(オンライン・オフライン問わず)という価値を重視しています。

02 具体的なDXの一例

製造業 (スマートファクトリー)

- ◎IoTセンサーで設備の稼働状況を監視
→ 故障予知やメンテナンスの自動通知
- ◎AIによる需要予測
→ 生産計画の最適化、在庫の削減

小売・流通業

- ◎AIによるレコメンド機能
→ 顧客の購買履歴から好みに合った商品を提案
- ◎キャッシュレス・セルフレジの導入
→ 待ち時間短縮と省人化の両立

医療・介護

- ◎オンライン診療・遠隔診断
→ 高齢者や地方の患者も医療アクセスが向上
- ◎電子カルテのクラウド化
→ 複数の医療機関でスムーズに情報共有

行政・教育

- ◎マイナンバーカードと行政手続の連携
→ コンビニでの住民票などの取得が可能に
- ◎デジタル教材・リモート授業
→ 教育機会の平等化と個別最適学習の実現

DXにおいて、デジタル技術はあくまで**手段であり、目的ではないという認識が重要**です。DXは、デジタル技術を活用して企業や社会を変革し、ビジネスの価値を高めるための取り組みです。したがって、デジタル技術の導入自体が目的化してしまっ**ては、DXの本質を理解していないこと**になります。

03 DXを進めるために必要な要素

① 経営層のリーダーシップ

DXは単なるIT導入ではなく、**組織文化やビジネスモデルの変革**を伴います。そのため、現場任せでは

うまくいかず、**トップダウンの明確な意思決定と推進力**が必要です。

② 明確なビジョンと戦略

DXは長期的な取り組みのため、全社員が共通の目標に向かって動く「**道しるべ**」が必要です。現場任せで個別最適が進んでしまうと、**全体最適から外れたDX**になり、投資効果が薄れてしまいます。

③ DX人材の育成・確保

DXはITスキルだけでなく、**ビジネス理解・課題解決力・変革マインド**が必要になります。外部からの採用だけでは限界があり、**社内人材の育成が不可欠**です。IT部門だけに任せるのではなく、**全社的に「デジタル活用が当たり前」な文化づくり**が必要です。

④ データ利活用とセキュリティ対応(攻めと守りのDX)

攻めの
DX

顧客ニーズ、業務効率、経営判断を「勘」ではなく「**事実**」に基づいて最適化するためデータを蓄積・分析・活用することで、**新たなサービスや価値を創出**。

守りの
DX

サイバー攻撃や情報漏洩等が**企業の信頼と事業継続に重大なリスク**が潜在します。DXが進むほどデータやネットワークの依存度が高まり、**セキュリティリスクも増加**します。

04 DX戦略策定の5ステップ

① ビジョンの策定

企業の将来像や目指すべき方向性を明確にします。

② 現状の把握

業務プロセス、IT環境、組織体制の現状を分析します。

③ 課題の抽出

現状とビジョンのギャップから課題を洗い出します。

④ 戦略・施策の立案

課題解決のための戦略や具体的な施策を検討します。

⑤ 実行計画の策定

実行スケジュールやリソース配分を明確にし、行動計画を立てます。

DX推進でお困りの方は

秋田県よろず支援拠点 にぜひご相談ください。